

日 時	令和7年1月9日(木) 11:00~11:30 第7回経営会議
出席者	伊地知副市長、大久保副市長、佐藤副市長、技監、政策経営局長、総務局長、財政局長、市民局長、中区长
欠席者	平原副市長、脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長
議 題	1 資源選別施設の再整備について【資源循環局】
議 事 要 旨	<p><b>【論点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老朽化した市内4か所の資源選別施設の再整備を順次実施する。まずは、鶴見資源化センターについて、令和7年度より再整備に着手する。</li> <li>・資源選別施設の再整備は、民間資金を活用した事業手法で実施する。</li> <li>・資源選別施設の再整備を機に、4施設から3施設への集約化を目指す。</li> </ul> <p><b>【説明要旨】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の老朽化や手作業による非効率な選別作業を改善するにあたり、長期停止を伴う大規模改修は困難であることから、令和7年度から老朽化の著しい鶴見資源化センターの再整備事業に着手する。また、再整備にあたっては、最新技術の導入による作業の効率化を図る。</li> <li>・従来の公設公営に対して定量的・定性的なメリットが見込まれるため、民間資金を活用した事業手法で再整備を実施する。仮にBT0方式で試算すると、従来方式に対してVFMが約4%向上する。今後、本市にとって最適な民間資金を活用した事業手法を選定していく。</li> <li>・再整備による施設の処理能力向上に伴い、施設を集約できる可能性があるため、将来的に4施設から3施設への集約化を目指して検討を進める。</li> </ul> <p><b>【主な意見等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラスチック使用の国際的な動向や缶・びん・ペットボトルの3種混合の組成変化など、不透明ではあるが将来的な変化が想定される。鶴見資源化センターは喫緊の課題として早期に再整備が必要であるが、今後の再整備の検討においては環境の変化にも対応できるようにしてほしい。コスト削減にあたっては、排出状況を踏まえた収集回収の変更など収集面からも検討を進めること。</li> <li>・民間資金の導入にあたり、民間がコストメリットを見出して参入できるよう、VFMが高くなる工夫を図ってもらいたい。運営コストの削減や事業の継続性等を含め、長期的目線で試算した上で比較し、判断すること。</li> </ul> <p><b>【結論】</b></p> <p><u>主な意見を踏まえて局案について了承。</u></p>